

## 多摩丘陵北縁，上総層群稲城層の堆積環境

### Depositional environment of the early Pleistocene Inagi Formation, northern edge of the Tama Hills, central Japan

白井 正明<sup>1\*</sup>, 今村 暁歩<sup>2</sup>

Masaaki Shirai<sup>1\*</sup>, Akiho Imamura<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 首都大学東京, <sup>2</sup> 株式会社ナビタイムジャパン

<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan University, <sup>2</sup>Navitime Japan

東京都南西部から神奈川県北東部にかけて広がる多摩丘陵には、鮮新世末から更新世前期にかけて堆積した上総層群が広く分布する。上総層群模式地の房総半島では、多くの層序学的研究が行われ、日本列島の鮮新-更新統の模式層序の一つとされている。多摩丘陵の上総層群についても、20世紀後半には多くの調査・研究が行われている（例えば、岡ほか、1984；高野、1994）。特に高野（1994）は当時開発中の多摩丘陵に作られた多数の露頭を調査し、テフラ層序および堆積サイクルを利用して、層序の再検討を行っている。これらの一連の研究によれば、丘陵の東部と西部で上総層群の層相は異なっており、西部では礫-泥-砂の堆積サイクル（浅海-陸成層）が、東部では泥層-砂泥互層（深海成層）がそれぞれ発達している。

東京都稲城市周辺の多摩丘陵に分布する稲城層は、多摩丘陵西部の上総層群の中では上位に位置し、他の累層に比べ砂質部分の層厚が極めて厚いなどの特異性を有し、岡ほか（1984）などによると三角州の前置層、高野（1994）によると主に外浜堆積物とされ、干潟・内湾成の泥質堆積物が目立つ下位の累層との性格の違いが示唆されている。

京王よみうりランド駅近くの穴澤天神社裏手には、現在でも稲城層上部砂層が露出し、約150万年前に噴出したNG-YR火山灰（例えば、鈴木・村田、2011）の層準の直上には層理が極めてよく発達した凝灰質砂層が見られる。この部分には当時の陸側方向と推定される北や西方向への古流向を示す斜交層理や、潮汐のようなリズムカルな流向・流速の変化を示唆するレンズ状層理などの堆積構造が見い出された。これらの堆積構造を有する地層は、外洋と内湾・干潟を境するバリアー島のwashoverや上げ潮三角州（例えば、Reinson, 1992）の堆積物と推定される。またバリアー島構成層の下位には、生物擾乱を著しく被り、淘汰が極めて悪く、部分的にトラフ型斜交層理が残存する堆積物（エスチュアリーで形成）、上位には、HCSが発達する堆積物（外浜下部で形成）が存在し、相対的の海水準の上昇に伴い、バリアー島システムが移動していったものと推定される。

稲城層のバリアー島構成層の分布等は露頭が限られているために不明だが、その存在は、稲城層においても下位上総層群構成層と同様の堆積環境が継続されたことを示唆すると共に、従来back barrier堆積物はよく報告されているものの、バリアー島堆積物そのものの報告例がなかった多摩地域の上総層群において、バリアー島の痕跡を示す貴重な存在と言える。

#### 主な参考文献

Reinson, G.E. (1982) Transgressive barrier island and estuarine systems. In Walker, R.G. and James, N.P. eds., Facies models response to sea level change. Geol. Soc. Can., 179?194.

鈴木毅彦・村田昌則（2011）上総層群黄和田層とその相当層に介在するテフラの層序と対比。地質雑，117，379-397。

高野繁昭（1994）多摩丘陵の下部更新統上総層群の層序。地質雑，100，675-691。

キーワード: 上総層群, 多摩丘陵, 稲城層, 堆積環境, バリアー島

Keywords: Kazusa Group, Tama Hills, Inagi Formation, depositional environment, barrier?island